

学校教育目標	「自分の思いや願いを実現しようとする子」 ○学力を獲得した知識のみの枠に留めるのではなく、自ら学ぶための意欲と能力を加味した指導を実践します。(知) ○自分自身を知り、個性を認め合い、考えを尊重し合い、互いに共存していこうとする態度を育てます。(徳) ○多様な動機付けのもと、食育と体育の両輪による健全な身体の育成と体力向上を目指します。(体) ○発達段階に応じた探究・創造などの体験活動を重視し、「自分たちがつくる社会」について考える姿勢を育てます。(公) ○コミュニケーションを通して人と関わりつながっていくために、自分から挨拶する態度を育てます。(開)				
	創立 68 周年	学校長 小宮 健	副校長 柴 諭	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 4
学校概要	児童生徒数: 537 人 主な関係校: 岩崎中学校 保土ヶ谷小学校 岩崎小学校 瀬戸ヶ谷小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	岩崎中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <言語能力> <自分づくりに関する力> <聴く力>	岩崎中学校 桜台小学校 保土ヶ谷小学校 岩崎小学校 瀬戸ヶ谷小学校	自ら生活を切り拓いていく児童・生徒 ・ブロック内での授業研究会や授業参観等を通して、各教科の系統性や授業形態の違いを踏まえた意見交換を行う。 ・児童・生徒レベルでの小中交流を活発化させ、相互理解を図る。 ・学力状況調査を通して学力傾向や分布などを分析し、学力向上への取組に生かしていく。

中期取組目標	児童、教職員、保護者、地域住民など、そこに関わるすべての人々が、共に学び合い高め合う学校を目指します。 ○子どもたちが自分の好きなこと、本当にやりたいことを見つけ、自分たちの力で解決していくための、学びの場や時間を保証します。(解決) ○子どもたちが生命・健康・個性を大切に、自分らしさを発揮できるようにします。(個性) ○子どもたちが互いのよさや、可能性を認め合えるようにします。(共生)
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 学力形成部会	授業力の3要素「児童の実態把握力」「教材研究及び開発力」「教育技術力」を向上させ、魅力ある授業・分かる授業を実践する。3年生以上の一部教科分担制や中学年の算数における少人数習熟度別指導を活用して、基礎・基本の定着を基盤とした「進んで学び、学びを深め、学びを活かす子ども」の育成に励む。
徳 豊かな心 担当 児童指導部会	「だれもが、安心して、豊かに」生活できる学校をめざし、相手意識をもって他者の立場を考えたり行動したりすることを十分に価値付ける。「特別の教科 道徳」、人権教室、横浜プログラムを介して自分の考えを発信する力や他者の考えに共感する態度を育む。また、児童が自ら進んであいさつができるように働きかけ、その気持ちよさが分かるようにする
体 健やかな体 担当 体育・食育部会	新体力テストや生活意識調査の分析結果から、児童の実態と課題を再認識し、体育・健康プランに基づく取組を組織的に進める。授業・休み時間等で、運動することの習慣化を図り、学校保健委員会と絡めながら具体的な方法や運動することよさを捉えさせながら児童の体力向上を促したい。併せて食育も充実させる。
公 自分づくり教育(キャリア教育) 担当 総務部会	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自分自身の成長を自己評価できるようにする。自分で考え、行動できる児童の育成を図る。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①いじめ防止基本方針に基づき、未然防止に全力を注ぐ。毎月のいじめ防止対策委員会を機能させ、組織的に対応する。②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制を作る。そして、児童のいじめ防止の意識も高められるようにする。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 メンターチーム・働き方改革PJチーム	①経験の浅い教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーがコーディネーターとなって研修を進め相互研鑽し、校内の活性化を図る。②会議や研修の内容を見ながら、検討の仕方を考え直し時間の有効活用を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図る。③近隣の高校や大学・教職大学院等と連携して、次世代の教員育成を視野に入れながら、自身の指導を顧みながらスキルアップにもつながるようにする。
地域連携 学校運営協議会 担当 教務部	令和4年度に学校運営協議会を新規設置したので、本格的に機能させられるようにし、地域ともに学校運営ができるようにする。地域コーディネーターの考えを取り入れながら、地域と学校がさらに連携・協働し活動していくための体制を整えていく。
特別支援教育 担当 特別支援委員会	①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、打合せを積極的に行い、児童の相互交流がスムーズにできるようにする。個別支援学級からの発信もしたい。②支援が必要な児童にとって、最適な教育環境を探り、最終的には授業に参加できるように取り組む。
児童指導 担当 児童指導部会	①「桜台スタンダード」に基づく一貫した児童指導を充実させ、子どもたちが安心して安全に学校生活を送れるように努める。②職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。③たてわり活動を通して、他者とながら、リーダーシップや相手を思いやる心を育てる。そして、自己有用感・肯定感を育てる。
a15 担当	b10